

進路だより

第2号 令和7年9月30日

東京都立府中けやきの森学園校長

相賀 直

進路部 担当 山市 吉澤

まだ暑さの残る日が多いですが、日によっては風がやわらぎ、季節の移ろいを感じられるようになってきました。

いつも本校の教育活動に御協力いただき、ありがとうございます。

さて、進路だより第2号では、夏季休業中に行われた福祉課訪問や進路見学会、定着支援について、お伝えします。進路選択・決定の御参考になれば幸いです。

夏季休業中の活動報告

高等部3年保護者福祉課訪問

福祉サービスの利用や各種障害者手当などは、子供と大人で対象が変わります。18歳はいろいろな制度が切り替わる時期ですので、毎年7月に高等部3年生の保護者を対象とした福祉課訪問を実施して、今後の福祉制度の利用に関する説明を聞く機会を設けています。卒業後の生活に向けた話（愛の手帳の成人更新・就労アセスメント・障害支援区分の認定など）や障害年金、サービス利用の流れなどの情報、各市福祉課の担当のケースワーカーとの顔合わせなど充実した内容でした。市によって様々な取り組みもあり、直接情報共有ができる有意義な時間になりました。暑い中御参加いただきましてありがとうございました。

福祉課との連携は、高等部卒業後の充実した生活の実現には欠かせません。御家庭だけで全てを抱えるのではなく、疑問に思われました点は、遠慮なく在住の市の福祉課に相談していただくようお願いいたします。

保護者向け夏季進路見学会

今年度も多くの皆様に御参加いただき、誠にありがとうございました。進路学習の一環として、就労の場として4か所の企業、生活の場として通勤寮・グループホームの見学を実施しました。

見学を通して得られた情報は、お子様の将来の生活を考えるうえで大変貴重なものです。ぜひ御家庭内で共有していただき、今後の進路選択の参考としていただければ幸いです。

進路部では、こうした見学の機会を今後も重要な行事として位置づけ、来年度以降もより充実した内容となるよう、内容や訪問先の工夫を重ねてまいります。

卒業生たちは今 ～定着支援～

夏季休業中に旧担任や進路担当が進路先に訪問し、卒業生の皆さんが働いている姿を実際に見させていただきました。どの進路先も様々な勤務形態をとりながら安全に通勤・通所ができるよう配慮がなされていました。

多くの卒業生が、日々の仕事に慣れ、任された仕事に自信をもって取り組む姿は、とても頼もしく感じました。悩みや課題を抱えている卒業生についても、職場や就労支援機関の方々に相談することで、解決に向けた支援がなされていました。就労を継続するためには、卒業後の支援が重要であることを改めて感じました。

休日の過ごし方については、余暇活動が充実せず、家以外で過ごす場所がないという卒業生もいました。在学中に好きなこと(一人でできること、家族や友達と一緒にできること、家の中でできること、家の外でできることなど)を見つけたり、ショートステイなど家以外の場所で過ごす体験をしたりして、少しずつ準備をしておけると安心です。

進路先決定のプロセスについて

本校では、生徒一人ひとりの特性やペースに応じて、進路を段階的に支援する「スモールステップ」の考え方を大切にしています。まずは校内での作業学習を通じて、働くことへの興味や意欲を育て、次に地域の福祉施設や企業での体験実習へとつなげていきます。こうした積み重ねが、生徒の自信につながり、卒業後の進路選択にも良い影響を与えます。同時に、保護者の皆様をお願いしたい点がございます。是非お子様と一緒に施設や企業の外観だけでも構いません。見学をしていただけますとよりイメージがもちやすくなるでしょう。また、進路決定にあたっては、施設見学や体験実習を通じて、実際の支援内容や環境を知る機会を設けています。

保護者の皆様には、面談や日々の連絡帳を通じて情報を共有しながら、生徒の将来について共に考えていただければ幸いです。今後とも御理解と御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

